No.7 JULY 1994

UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI

今日の話題　第２回総会・シンポジウム

■CONTENTE

TOPICS　・第２回UIFA JAPON総会、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑの報告
・S.d'Herbez de la Tour さん会見記
MASSAGE　・UIFA JAPONシンポジウムに参加して

■TOPICS

第２回ＵＩＦＡ　ＪＡＰＯＮ総会、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ報告

開催日　1994年６月11日（土）

場　所　東京芸術劇場５Ｆ中会議室

◇総　会　13:40〜14:05

出席者　会員33名（委任状15名）

○中原会長の挨拶と報告

・S.d'Herbez de la Tour さんからのﾒｯｾｰｼﾞ

・東京女性財団からの助成金が決定。94年10月に韓国女性建築家との交流会・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑを開催する。

○1994年度役員選出

○議案の審議・議決

・1993年度活動・会計報告と監査結果、および1994年度活動計画・予算案について説明があり、採決の結果原案どおり可決された。

◇シンポジウム　14:30〜16:00

出席者　会員37名、招待者１名、ﾌﾞﾚｽ　３名、他19名

テーマ　サンフランシスコ・オークランド・バークレイ〜やさしい街の見聞記〜

講　師　川内美彦　　地域生活情報センター
野村みどり　都立医療技術短期大学
小川信子　　日本女子大学家政学部

◇懇親会

16:30〜18:00

出席者　43名

・ﾚｽﾄﾗﾝ・ｴｽﾄｴｽﾄにて会員の親睦を深めた。

■ＵＩＦＡ　ＪＡＰＯＮ　名誉会長

S.d'Herbez de la Tourさん会見記　会長 中原暢子

私は今年の５月約30年ぶりにパリにいく機会を得ました。名誉会長にお目にかかって、６月のUIFA JAPONの総会のための、ﾒｯｾｰｼﾞもいただきたいと思いました。彼女は丁度スイスに出張中で日本からは連絡が取れず、パリに着いてからやっと元気なお姿にお目にかかれました。

ＵＩＦＡをなんとかユネスコに加盟させるべく今は頑張っている、具体的になったら日本にも詳しい資料を送るとのことでした。

何時もと違って個人でお目にかかっているせいか、30年前UIFAをつくった時はﾙｰﾏﾆｱ からパリに移ってきたばかりでいろいろな事情にも通じていなかったけれども、世界の人達と友達になりたかった。今は御両親とも亡くなられて全くの独りであるが、ＵＩＦＡのために働くのが望みなのだ、としんみり話されました。中原とは30年前からの付き合いだが、言葉や習慣などが違っても心は通じるものだと言われ親しみのこもるお喋りを致しました。身辺の寂しさを噛みしめながら、なんとしてもＵＩＦＡを末永く存続させたいという彼女の強い意志に感動した一刻を過ごしてまいりました。

MESSAGE FOR THE SECOND SESSION OF U.I.F.A. JAPON

I take the opportunity, both on behalf of "Union Internationale des Femmes Architectes" and of myself, to wish U.I.F.A. JAPON and all its members much success and prosperity.

We are certain that Mrs. Nobuko Nakahara the President, and the most skilled cooperating members, are best suited to lead U.I.F.A. JAPON to the peak at the head of the world subsidiaries.

I wish U.I.F.A. JAPON to succeed on its way up, mostly owing to the fact that the women architects of JAPAN held to promote our noble profession by their most devoted and thorough activity.

Long live U.I.F.A. JAPON !

S. d'Herbez de la Tour.
President of U.I.F.A.

1 June 1994 Paris.

■広報だより

昨今の猛暑、水不足。その中で果敢に仕事にはげむ会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

第２回総会・シンポジウムも多数の会員の参加をいただき盛会のうちに無事開催することができました。

さて総会でもお知らせいたしました、この秋開催予定の日韓シンポジウムに向け、理事会を先頭にプロジェクトコアメンバーがその準備を着々と進めております。韓国よりすでに２名のパネリストの推薦と韓国女性建築家協会会長及び副会長２名の出席が伝えられています。日韓交流を深め充実したシンポジウムにすべく皆様のご協力をお願いします。

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8
芝公園アネックスビル㈱生活構造研究所内
TEL 03-3459-0221

■やさしい街の見聞記について

今回のシンポジウムは私にとってとても興味のある内容でした。それはいつも「まちづくり」の仕事で実感している「参加」というキーワードです。障害者・女性・子供・高齢者などの弱者・生活者の立場の人たちが自分で考え決定し、社会参加できるということは考えてみたら当たり前のことではないでしょうか。自立とは自己決定権を持つことなのだという川内さんのお話に、私は何度もうなづいていました。

私も５月にカリフォルニアのパサディナ市に「市民参加のまちづくり」という研修に行ってきました。ＮＵＳＡ（ＮＥＩＧＨＢＯＵＲＨＯＯＤ＝近隣）という会議にも参加して、市民参加への市民のｴﾈﾙｷﾞｰと行政の日本との対応の違いを見聞きしてきたばかりなので「市民参加」の意味を深く理解できました。

神奈川県　宅地開発研究所　吉田洋子

■「やさしい街は、やさしい心から」

「とにかく体験してみようでは！」と始まったこの視察。この強行軍のスケジュールで、21回の食事の中ただ一度、２階のレストランへの辛い思いだけで、無事皆さんと行動を共にされた川内美彦氏の報告に、なんと「やさしい街」なのかと感心させられた。日本でも各地で盛んに環境アクセシビリティについて語られている。建築に携わる我々も、改めてきめ細かいバリアフリーデザインとは何かを問われている。障害を持つ子供が普通学級で生活できるには！どの子供も自由に遊べる公園を！などの話を聞くにつけ、日本の貧しさを考えさせられる。これはいったい誰の責任なのか。「缶を捨てたら誰が困るのかな？」こんな会話から思いやりのある子供が育つ。今の日本にはこれが一番大切なことではなかろうか。

愛知県　名古屋女子文化短期大学　藤田淑子

■共生と思いやり

入会して１年、初めて参加した総会も遅刻し、川内氏の講演の最中に、そーっと席についた。川内氏のレポートの、バークレーという急進的気風の地が共生への思いを力におきかえ、もろもろ実現してきたディテールを伺った。私たちを含め各々が各々のハンディを持ちながら、それぞれの社会の交流を歩み続けられるための手段だけではなく、その手段を現実化する手法をもっと学びたいと思った。何とはなしに使っている“思いやる”という言葉は、やさしさいっぱいの言葉だが、実際は積極的に何かをつき動かそうという力を持っているものであり、快もあり不快もあり、時には偽善的でもあり、押せば何かが出っ張るというものなのだと。そんな認識をもって何かにしていかなくてはいけないものかもしれないとも思った。

東京都　アール・アイ・エー　井出幸子

■シンポジウムに参加して

ＵＩＦＡ　ＪＡＰＯＮのシンポジウムには、今回初めて参加させていただきました。バリアフリーに関するバークレーの報告の中では、川内氏の講演が強烈に印象に残りました。日常的に車椅子を使われる実生活を通して語られた川内氏の言葉には他にはない説得力が感じられ、言葉として理解してはいても実感のもてていなかった“自立”や“バリアフリー”という言葉のもつ意味を、多少は会得できたのではないかと思います。

私は現在まちづくりや施設の計画に携わっていますが、仕事の中でも現場の生の情報や声が不可欠であることを実感させられています。ＵＩＦＡの活動には「女性建築家」の交流の為の活動だけでなく異なる分野の第一線に触れる機会づくりを期待したいと思います。

東京都　日建設計　茂原朋子